

令和5年度旭川未来会議2030 文化分野 第2回分野別会議 会議録

- 1 開催日時 令和5年7月28日(金) 午後7時から9時
- 2 開催場所 旭川市市民活動交流センターC o C o D e 2階会議室1及び屋外スペース
(旭川市宮前1条3丁目3番30号)
- 3 出席者(参加者) ※敬称略, 五十音順
あべ みちこ, 小沢 和雄, 佐藤 真由美, 柴田 望, 竹中 英泰, 野口 博人, 山田 雅紘
- 4 出席者(市側)
(運営事務局)
文化振興課 坂本課長, 松里文化ホール担当課長, 小川主査
(統括事務局)
広報広聴課 乙坂広聴係主査
- 5 会議の公開・非公開 公開
- 6 傍聴者 2名(報道機関: 2名)
- 7 テーマ及び議題
「2030年までに実現させたい文化芸術の活動の未来像」
 - (1) 10月のプレゼンターの選出
 - (2) コラボレーションイベント実施の提言に向けた報告書の骨子の検討
 - (3) 取組の提言に関するその他意見の整理と取組案の検討
 - (4) 2030年までに実現させたい文化芸術活動の未来像とは
 - (5) その他情報交換

8 会議概要

事務局より, 配付資料を基に, 会議の方向性を説明した後に, 委員の互選により, 10月のプレゼンター2名を選出した。

その後, 議題(2)「コラボレーションイベント実施の提言に向けた報告書の骨子の検討」について, 会議室1にて以下のとおり参加者による意見交換を行った。

(参加者)

コラボレーションイベントということで, 私がまず思ったこととしては, 大きいイベントは華々しいし, 盛り上がると思うが, だからこそ, ただやるってことではなくて, 何のために, 誰のためにやるのか, きちんと詰めなくてはならないと思う。

この点について御意見があれば, 伺いたいと思う。

(参加者)

場所は買物公園として、誰に対してというのは、絞らない方が良いと思う。芸術に興味のある人しか来ないよだと間口を広げるといふ狙いからずれるのではないだろうか。露店などを転々としながら、そっちを見に行っただけアートも見ることができたというように、アートを好きになるきっかけを作る目的の方が良いのではないかと思った。

(参加者)

買物公園でということだが、定期的に大道芸人さんが活動していたりしたと思う。

(参加者)

以前から話しているが、まなびピアの内容を何か変える形で実現できれば、活動のスタートとしては良いのではないかと思う。小さな会場だと吹奏楽、ダンス、お芝居等のコラボレーションや作品発表の際に、人の入替えが難しいので、まなびピアのように市民文化会館を一棟借りして、大ホール、展示室、廊下、小ホールの全てを回しながらやるということができれば、大ホールで公演できるし、お芝居は小ホールでやろう、展示室は写真を飾ろう、廊下、ロビーには体験できるブースを作ろう、物販もやってみようといったような、色々なやり方が生まれてくるのではないだろうか。

屋外実施だと天気に左右されることも問題になる。

以前、他ジャンルと合同で「旭川を元気にしよう」というテーマでスーパーライブというイベントを開催したときに、三味線の方とダンスのコラボをしたのだが、近くの老人ホームや保育園から招待して観ていただいた。介護施設など施設内での小さな夏まつりとか、誰かに演奏しに来てもらうことなどはあるが、なかなか人手も足りなく外に出向くことは難しいので、高齢者や園児が色々な文化芸術に触れる機会があると良い。公共施設の中であれば、バリアフリーなので動けるし、良いと思う。

実施時期については、吹奏楽やダンスでいうと、新年度は人の入れ換えがあり、夏から初秋に掛けてはイベントやコンクールなどがある。冬になってしまうと、今度は雪で難しくなるので、10～11月頃が適切な時期かと思う。

まなびピアも、お客さんとして体験してもらったり、参加してもらおうというところにメリットを置くと、昨年のように10～20人の少ないお客さんが、ただ公演や作品を観て帰るというだけのものから形が変わると思う。そして、それを継続することで、徐々に発展していき、買物公園とか、駅前広場とかでできるようになっていくのではないかという考えている。

まなびピアでは、複数の会場を使用するのですが、運営はとても大変である。

(参加者)

開催場所としては、市の施設あるいは買物公園のほかにも色々ある。

(参加者)

ジャンルによって対応できない場所もあると思う。

(参加者)

文化会館の大ホールなら複数団体が参加できるのではないだろうか。

(参加者)

1 団体30分くらいで回して、通路やロビーなども使いながらであればできる。

(参加者)

デザインセンターで琴を弾いたら素敵だと思う。

(参加者)

文化というジャンルは多様なので、取組の異なる色々な団体を束ねてやろうということだと思う。その時に、市に対してこれをやれと言うのか、自分たちが議論の結果としてこういう組織を作って、2030年に向けてこうやるのか、という点が気になる。

ただ、やろうやろうということなら、議論はいくらでも膨らむが、最終的にやるとなったら、束ねる団体が必要である。

例えば、仮称で文化団体協議会を復活させて、そこが束ね、それを市が応援するというところまでやらないと、言いつばなしで終わるだけだ。

市が未来会議2030を打ち出した意味が、広く色々なジャンルから意見を求めて、それを今津市政として吸い上げていきたいというものなのか、勝手に走るのでサポートだけしてくださいというものなのか、我々としても腹の構え方をどうするのか、ある程度考えておいたほうが良いのではないかと思う。

(参加者)

参加団体の人たちなどから、少し主になって動いてくれる人を選んで、市の方で舞台設営等やってくれる業者さんを雇い、その会社にしっかり回してもらおうようにし、それに対してお手伝いしてくれる人が何人というように、運営の方法を考えていけば良いのではないだろうか。前座でうちの団体が出演するのであれば、喜んで実行委員をやらせてもらいたいと思うし、本日欠席している参加者にも「やります」と言ってもらえると思う。

吹奏楽、ダンス、絵画、書道、囲碁将棋、お琴とその団体の人たちに出てきてもらったら良いのではないだろうか。芸術を広めたいと思う気持ちで取り組む出演者自身がイベントを作り上げることで、前向きに進み、良いものになるのではないかと思う。

(参加者)

食ベマルシェのようなものができるというイメージなのか。先程、デザインセンターで琴をというお話があったが、芸術では異空間、異世界との出会いがすごく大事で、詩ばかりやっている人たちが一つの部屋に入っても先細る。音楽をやっている人とか、絵画をやっている人とか、こういうようなマルシェを見て、ダンスっていいなあと思うところから広がっていくと思う。そういう意味で、こういうのはすごく良いなあと思う。

私たちは毎年フィールのギャラリーで、詩の展示、朗読、トーク等を行っているが、通りがかりのお客さんが立ち寄るような接点があり、このことがすごく大切だと感じる。一方で、実行委員会を立ち上げてすごく大きなイベントを成功させるというのと、芸術の心とはちょっと違うという思いがどうしてもあるので心配だ。「社会とうまく折り合いがつけられない」、「みんなと仲良くできない」とか、そういう方たちが出て来にくいような、すごく盛り上がっているようなものだと、入っていけなくなることもあるのではないだろうか。皆が参加しやすく、それぞれの心の自由

が尊重されるような目的であれば良いと思っている。

(参加者)

文化祭のような自由に観てもらえる形が良いのかもしれない。食べ物を入れるのはどうかとも思うが。

(参加者)

発表ベースなのか、体験ベースなのかで考えなくてはいけない。どちらに比重を置くかによって会場選びが決まってくる。発表、つまり「観る」をベースにするなら文化会館が良いし、偶発的にたまたま出会ったというのをベースにするなら買物公園だろうし、体験会というのであれば、ホールをパーティションで区切れるのでココデが良いと思う。

(参加者)

両方やっても良いのではないだろうか。

(参加者)

芸術マルシェの一環として、ジャンルによって会場を分けて開催し、旭川駅前と買物公園、公会堂・文化会館といった場所で同時多発的にするぐらいにしかできないのかと思う。建物が必要な芸術と、展示場所が必要な芸術と、外でできる芸術とがあるのではないか。

(参加者)

大きく分けたら二つでできないだろうか。大ホール、小ホール、展示室、会議室は市民文化会館の中にある。もう一つは、青空の場合は屋外で、雨が降った場合はホールの中でできる施設だと良い。今年の音楽大行進のアフターコンサートは雨天だったが、アッシュ前のステージは中止で、大ホールは実施できた。雨によって中止になるリスクを回避することを考えないとダメかなと思う。大変だが、2か所あったら対処できる。

(参加者)

運営が大変だ。人とお金がすごくかかりそうだ。

(参加者)

これから旭川を担っていく子どもたち、これまで旭川を作ってきた高年齢者の人たちが交流して、一緒に何かができるようになったら良いと思う。

(参加者)

2030年までにということだから、一度に何かやるということではなく、順番に少しずつ付け足すような提言をしても良いと思う。また、繰り返しになるが、複数の団体をつなぐ役割についてはしっかり議論しておかないと前進しないと思う。

(参加者)

やはり、まったく支援のないところから始めるより、もともとある「まなびピア」をもっとより良くして、知ってもらった上で、来年、再来年とつなげていくほうが良いという考えている。その方が、とっかかりとしては動きやすい。まなびピアも昨年からは、市ではなく、出演者自身が話し合い、自分たちで作る形に変わってきていることもあり、この提案と親和性がある。

※ コラボレーションイベントについては、議論が尽きないので次回に持ち越し、さらに深めていくこととした。

次に、議題(3)「取組の提言に関するその他ご意見の整理と取組案の検討」について、屋外スペースに移動し、以下のとおり委員による意見交換を行った。

(参加者)

文化芸術活動に賛同する人が交流ができるように、バッチか何かを付けて意思表示ができるようにするのはどうだろうか。音楽系やダンス系などのジャンル別のバッチを付けて、「あなたもそうなんですね」といった交流のきっかけを与える狙いだ。期間限定でも、1年中でも良い。それを付けていたら同じジャンルの文化芸術に興味を持つ方同士で話しやすいし、バッチが欲しい人はいつでももらえるようにすれば良いと思う。

(参加者)

海外との交流を助けていただけるようなものがあったら良いと思っている。今年の6月27日に三浦綾子記念文学館に韓国から「国際PEN文学会」の詩人14人が来られた際に、私が旭川の詩についてお話をさせていただいた。その時に通訳していただいたのが元東海大学の先生だった。先生がいないと何も話が通じないという状態になった時に、文化を通じて海外の方とやり取りをする際に、通訳を紹介していただけたらすごく良いと思った。前回話したが、アフガニスタンの詩人と詩集を発行する運びとなった。先方とはAIで翻訳した英語でやりとりしている状況だ。海外との交流で何か助けていただけたところがあれば、すごくありがたいと考えている。

また、今までお話しした活動について、こんなことをやっているということを共有できるようなインスタやツイッターのようなものがあったら、活性化するのかなと考えている。

先ほど、「どういう目的で」という話が出たときに、すごく考えたのだが、アフガニスタンの詩については「詩が書ける状況にしていきたい」という目的がある。なおかつ、さっき配った札幌の朗読会については「平和の祈り」という目的がある。

旭川市民全体が動いて何か取り組んでいくという中で、大きな目的というのが大事なのかなと思っている。色々なジャンルで違う活動をしている人たちが、一つ何かを起こしていく際に、何かキーワードとなるような目的が必要だと思う。

(参加者)

今の話とずれるのかもしれないが、今回の会議のテーマの一つに街づくりと文化というところがある。自分はそれに対して、一つは、今ある文化をいかにつなげて発展させていくかだと考えていて、先ほどの話にあった海外との交流については、たぶんそこに入ってくることだと思っている。街づくりということで考えてみると、今ある文化、今ある団体、今活動している人が羽ばたいていく、高まっていく、つなげていくということだと思っている、そのためには、新しいことを始めやすいかどうかということが重要だが、議題としてなかなか挙がっていないような気がする。

ここにいる人たちは、もうどこかのコミュニティーに属していて、もう何かを始めている段階にあるので実感はないかもしれないが、文化が盛んな街にするためには、若者に限らず、新しい

ことが始めやすい環境が用意されていなければならないと思う。コラボイベントとか、SNSもそうだが、間口を広げることに役立つのだが、その次の段階として、新しく何かを始めようとしている人にとっては、何も役に立っていない。そのことについても話し合いたい。

自分はここでは一番若くて、団体を作ったのも最近なので、旭川で何かを始める難しさを実感していて、正直、若者が何かを始めるのは、結構しんどい。例えば、私たちはお金がないので、公民館を稽古で使いたいのだが、月5回までしか使えない。私たちがいつも使っている公民館は、ほぼ人が入っていないが、5回までしか使えない。月5回の稽古で何ができるのかっていうと、何もできない。札幌と比べてはいけないのだが、僕たちみたいな団体に出してくれる補助金の額もゼロが一つ違う。そこに関しても皆さんで議論できたらなとは思っていた。

キックオフミーティングの際の市の資料に、旭川の課題に、若者の文化への認知度が低いというのがあって、だから私たちの公演を観てくれる方が少ないというのもそうなのだが、そもそも若者が何かを始められない環境というのも、「若者の文化への認知度が低い」という課題につながっているのかなと思っている。この街で新しく何かをしようとするときに、ハードルが多すぎる。

(参加者)

そういった課題を相談できる場所があれば良い。

(参加者)

札幌で写真展を開催したことがあり、その際に会場費の助成を受けたのだが、一定の要件はあるものの、半額を支給してもらえた。

今、若者がなかなか動けないということに対して、行政が柔軟な判断をして対応してくれるかということはすごく大事なことだと思う。文化芸術というのは、長くやってきた人はずっと続けていけるが、新しく入るとか、新しく作る時には、後を押すとか、援助がないとなかなか難しい。

せっかくこういう機会があるので、文化芸術活動をしている団体が一堂に会して、意見を言い合える機会があれば、何か発想の転換というか、新しい発見があると思うので、行政として続けていってほしいと思う。

(参加者)

クラウドファンディングも年配の方にはなかなか難しい。

新しく何かを始めるときには、人脈を利用し、行政を動かすと良いと思う。私が、2012年に東鷹栖出身の作家である安部公房の会を立ち上げた際に、公民館に記念碑を設置しようという話になったのだが、そのために、公民館の館長に会員として入会してもらったり、市議会議員に応援してもらったり、人脈を広げることで市も無視できない活動となり、結果として、市長に賛同いただく形で、行政のバックアップを得て、東鷹栖の近文第一小学校に記念碑を設置することができた。そのような流れで活動の基盤ができた後に、イベントをやるとか、SNSで活動の輪を広げていくといった次の展開に移ることができた。

(参加者)

演劇でいうと、旭川は正攻法で補助金を受けても、なかなか公演の実施まで持っていくのは難しい。市民の非営利団体が申請した場合、公的な施設を使用すると減免が受けられるが、満足できるお芝居ができるかという、設備が不足していたり、壊れていたりともともに使用できる施

設がない。民間のホールを使用した場合、金土日のホール使用料だけでも25万円から30万円以上かかるので、市の補助で最高5万円が補助されるが、金額が少なすぎる。

私たちは幸いご縁があって、軌道に乗せることができ、何とかなっているのですが、いざ新しい団体がやろうとなったときに、正攻法ではしんどい。今、お話にあった、人と人とのつながりを使って、ある種、利用するというのも、20歳そこそこにはできるかという、それこそ敷居が高いという状態で、これだと尻すぼみかなと思っている。

(参加者)

公演がやりたいのであれば、旭川市教育委員会の教育指導課で「あさひかわ子どもの学び人材リスト」という、授業として対応できる取組の概要を市に登録し、学校にお知らせしてもらえる支援を活用できると思う。

このように、市が若者の活動を知らせるシステムがあると良い。

(参加者)

旭川には3つも大学があるのに、音楽系以外での活動をあまり聞かない。

(参加者)

東海大学があったときは、もっと若者の活動が活発だった。

(参加者)

まちなか文化小屋のような小劇場が沢山できれば、演劇のほか、写真や絵画の展示、映画の上映などの色々な小規模の文化活動の回数が増える。夢は下北沢や中野のような状態。

私のダンススクールでは、他ジャンルとのコラボを行っているが、例えばお芝居の裏方として協力をして、その代わりに芝居の団体に自分の公演も観に来てもらうというような協力関係を築いている。文化芸術という大きなくくりで力を合わせられれば良いと思う。

(参加者)

都会であれば公共交通機関を使えるが、旭川の難しいところは駐車場が必要ということもある。

※ 議題(3)について、発言を整理した上で、次回引き続き検討することを確認。

次に、(4)「2030年までに実現させたい文化芸術活動の未来像とは」について、これまでの議論を踏まえて目指すべきところのキーワード化について、以下のとおり意見交換した。

(参加者)

暮らしの中のいつもどこかに文化芸術活動があり、ちょっと特別な日にも触れてもらえるようなイメージで、「暮らしに文化、デートも文化」というのはどうだろうか。

(参加者)

デートで映画を観に行くというのはよく聞かすが、芝居やコンサートってあまりないかもしれない。

(参加者)

前回の会議の際に印象に残ったのですが、「文化は世界の共通言語」というのはいかがか。

(参加者)

文化で世界と関わり、コミュニケーションをとり、共感をするというところだろう。

(参加者)

入口、間口を広げるという要素が重要だ。若い人との接点を作って、文化芸術に触れてもらい、興味を持ってもらうことを目指すべきだと思う。

以上